

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192300024		
法人名	有限会社こすもすケアセンター		
事業所名	グループホームこすもすの森		
所在地	岐阜県養老郡養老町有尾88番地		
自己評価作成日	平成30年7月1日	評価結果市町村受理日	平成30年9月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2192300024-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成30年7月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な環境で利用者・職員は共同生活を行っていく。地域住民との交流を積極的に行い、利用者がその有する能力に応じ、自立した楽しい日常生活を継続できるよう支援を行っていく。職員と利用者家族との関係を深め、利用者との絆をより強いものにする。利用者の身体状況が重度化していく中での医療体制の充実を図っている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所全体に陽光があふれ、すべての利用者の部屋からは、自然豊かな景色を眺めることができる。管理者と職員は、常に利用者一人ひとりの立場に立ち、家庭的な環境の中で、その人らしい穏やかな生活が送れるよう支援をしている。医療機関と連携を密に行い、利用者・家族の安心につなげている。関連施設との協力体制も充実しており、地域住民との交流も積極的に行われている。訪問者を気持ち良く受け入れる雰囲気があり、利用者の家族や友人の面会も多い。職員教育や設備の充実を図りながら、信頼される事業所作りと更なるケアの質の向上を目指している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	4つの理念は玄関先に提示されており職員は出勤時に再確認している。グループホームの理念は事業者の理念として各事業所にも提示されている。倫理・法令遵守についての勉強会も今年6月に実施している。	理念は、職員をはじめ、訪問者の目にも留まりやすい玄関に掲示している。家庭的な雰囲気、その人らしさの重視、楽しみのある生活、地域とのつながり、これらの理念が日々のケアに活かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校との交流会、中学校の資源回収への参加、地域住民と共同の防災訓練等、地域の一員として交流しています。	小中学校との交流として、合唱発表会や七夕の笹飾りづくり、夏祭りへの参加、資源回収への参加などが行われている。また、踊りや手芸、傾聴ボランティアの受け入れも行っている。地域の共同防災訓練にも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	お問い合わせ、入所の申し込み、施設の見学等に対して快く受け入れをし、丁寧に説明するように努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故報告をふまえ、事故のないようにして欲しいという利用者家族からの意見を受け、ケア会議等で再発防止の為に改善案を出しそれを実行している。	運営推進会議には、各ユニットの家族会代表も参加している。利用者の要介護状態、入退所、事故・苦情・相談等、報告している。事故については、ヒヤリハット記録をもとにケア会議で検討した上、運営推進会議で予防対策や改善案を話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加要請を必ず行い、実情の報告もその都度、行っている。	制度改正や、水害の対応指針の作成について、市町村からの連絡が入るなど、連携体制にある。地域包括支援センターからは運営推進会議への参加も得ている。また、センターのケアマネジャーから、入居希望者についての連絡もあり、協力関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全性を確保するための施錠はやむを得ないが、必要以上の施錠は行っていない。身体拘束は行っていない。	4月からの身体拘束に関する減算も踏まえ、3か月に1回、関連事業所全体での勉強会に参加している。利用者の事故防止のため、センサーマットを使用し、職員が早期に駆け付け、適切に対応できるよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護において、虐待と認識できる行動は相互関係の都合上発生する場合があります、その場合は、ケア会議にて検討することになっている。虐待についての勉強会も実施している。		

岐阜県 グループホームこすもすの森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	大半の利用者が今後(法律行為を行う等により)成年後見制度が必要になる。金銭面の相談を受ける事もあり、適切に回答することは困難であり地元金融機関とも時々相談をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をしているので、署名や捺印を頂いていると認識している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族から、利用者に関する職員への要望に関しては傾聴し職員内で出来る事は申し送りノートに記載し、情報を共有している。	家族の来所時や電話の際に、意見や要望を聞いている。利用者・家族の意見を尊重し、把握した事をノートに記録しておき、対応方法について職員間で情報を共有し、運営につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	改善提案についてはいつでも気軽に話して頂いている。即時対応が困難な提案については、ケア会議や事務所への稟議書として提案している。	管理者は、利用者の重度化に伴い、職員の意見や要望を聞き、安全な入浴支援ができるよう、特殊浴槽を設置している。利用者の安全や職員の腰痛予防対策など、会議での意見が取り入れられ実践されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に数回、勤務評価を行っている。本人の思い等をアンケート方式にて記入してもらっている。その意見は社員会議にて反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に数回、県やその他の機関が行っている研修会への参加を推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており他のグループホームとの交流・意見の交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化は言葉だけで伝えることは困難であるので、インテークの際は、決して不安にさせるような発言は避けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安な事、要望は必ず聞いている。最初は不安ばかりであるので、納得がいくまで聞いてもらうようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最優先の課題をアセスメントの段階で職員と共有するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	既に入所されている方々は職員の顔も覚え、家族のような自然体でアットホームな暮らしを支援していると認識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に訪問された家族には、積極的に利用者の現状を話すようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人による面会もあり、馴染みの場所については家族に依頼し、外出支援を行って頂いている。	職員が、家族や利用者の友人に積極的に声かけを行っており、訪れる人も多い。職員による様々な外出支援により、馴染みの関係の継続が行われている。また、利用者の希望を家族に伝え、協力も得ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、同じ生活の場であるという認識が強くなっているが、人間関係の悪化も懸念される時もあり、距離を置く等の対策も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	夏祭り等のイベントへの参加の案内状を出すなど関係を断ち切らないような取り組みを心掛けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	大半の利用者が希望、意向の訴えをすることが出来ない。その時、その瞬間に見える笑顔がより多くなるようなケアに努めている。	利用者の言動や仕草から、本人の希望や好む活動を把握し、対応するよう努めている。職員は、家族とも積極的にコミュニケーションを図り、来訪時にはケアの様子を見てもらい、理解を得られるよう努力すると共に、家族の意見を聞き取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からなかなか聞き取りが出来ないので、面会の家族等から色々な角度から質問し、情報を引き出す工夫をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に利用者の観察をし、異変や特変があれば職員間で報告、相談をして皆で共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	気づいた事、変化があった事等は申し送り、個別の介護記録に記入し、カンファレンス会議にて全員で検討し方針を決定している。計画作成者はその内容を踏まえ家族等とも相談している。	職員は担当利用者のケアプランの実践について、モニタリング報告書を作成し、カンファレンス会議で検討し方針の決定に生かしている。情報の共有のため記録には様々な工夫がされているが、転記作業が多く、スタッフの負担も大きい。	職員の負担軽減の為にも、記録の記述・活用が、効果的に看護・介護の記録に反映できるよう工夫し、情報の有効活用が、より良いケアに繋がるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に記入し、それをもとに他職種間で話し合い方針を決定している。申し送りノートにて他全ての職員に伝達している。統一したケアの実現により近づく方法だと認識している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出がしたいと言われれば、職員の人員を手厚く配置し買い物に出かけたり、寺にお参りがしたいと言われれば夕刻でも出かけたような柔軟性を持つようにしている。		

岐阜県 グループホームこすもすの森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の小学6年生が、授業の一環で福祉に関する勉強を行っており、同法人のデイサービスと共同で交流会を実施している。今年に入って2回、1回は当施設見学、あと1回はデイサービスまで外出を兼ねて出向き、児童の合唱を楽しめました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診は家族にも協力して頂いている。訪問診療も行っており、月に2度診察を受ける安心感を得られると家族にも好評を頂いている。ターミナルに近い利用者には深夜でも対応して頂き、安心して生活して頂けるよう支援している。	週2回、かかりつけ医の往診があり、必要に応じ利用者は受診している。健康管理や治療が適宜行えることや、緊急時の対応は、本人・家族の安心感につながっている。また、医師を交えた看取りケアの学習会を行い、ケアの質を向上させている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体的変化はすぐに看護師、訪問看護師に報告している。看護師が休みの時でも電話連絡をし、指示を仰ぐようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院期間中でも面会回数を増やし、身体状況を都度確認し、職員間で情報を共有している。面会時に病院関係者と話す機会も増え、自然に情報を交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針がある。家族の面会時に、今考えられるリスクを説明している。利用者の死生観、家族の死に対する意見も聞くようにしている。終末期に該当される利用者があり、出来るだけ利用者本人が安心して過ごして頂けるような配慮を心がけている。	入居時に看取りについての希望を確認し、同意書ももらっている。また、適宜説明を行い、意思の確認を行っている。医療機関との連携体制も整っており、利用者の意思を尊重した看取り支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年7月に緊急時対応についての勉強会を実施。実践をかね、看護師の指導のもと行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年10月に火災を想定した避難訓練、今年5月には水害を想定した避難訓練を実施しており、区長さんや近隣住民の方にも参加して頂き、協力体制を築いている。	火災、地震の避難訓練の他、本年度は水害を想定した訓練を行い、対応指針を作成している。母体法人である寺の本堂への避難を可能にするため、スロープの設置を行い、地域住民の協力を得て避難訓練を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員と利用者は家族の一員との認識が強く、時として堅苦しい呼び方(呼称)をしない時があるが、一人ひとりの人格を尊重し、丁寧な言葉かけを心掛けている。	職員は、利用者の呼び方について、家族の要望も聞き、本人が慣れ親しんだ呼び方で声かけもするが、常に礼儀を重んじ、誇りを傷つけることなく、コミュニケーションをとり、より良い関係づくりに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定は最優先している。しかし、職員の構成、力量から、その思いに添えない場合がある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決められた時間(生活のリズムの確保)は仕方ないかもしれないが、時間的には自由裁量を行っており、ペースは大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装に関しては、家族が持参されて衣服を着用して頂いている。外出される時に何を着ていったらよいか職員に尋ね、うれしそうに服を選ばれる姿が見られ、職員も一緒に選んで決めて頂けるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一部利用者には準備に参加して頂いています。干し柿作り、切干し大根作りなど季節感が味わえるような取り組みや施設内の畑での収穫など出来る範囲で職員と一緒に取り組んでいる。収穫した野菜を使つての食事作りも利用者と一緒にしている。	食事は利用者一人ひとりに合わせて形態を工夫し、提供している。週2回、食事作り作業が可能な利用者が、職員と一緒に昼食作りを行っている。それ以外の食事は、調理時間を他のケアに専念できるよう、栄養管理を含め、調理会社にも委託している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護、看護記録に食事・水分摂取量を記載し、職員は常に数値を意識している。医師の指示がある利用者には特に注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは勿論のこと、定期的に訪問歯科診療を受けておられる方もあり、口腔ケアの大切さを認識している。		

岐阜県 グループホームこすもすの森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体的にトイレでの排泄が可能な利用者にはトイレ誘導を行うようにしている。排泄前のサインや言動を見落とさないように注意している。エンシュアや水分を多く摂ってもらう。便秘の人には腹部マッサージ等を行う。	トイレ誘導や、紙パンツ・パッド・おむつの使用、留置カテーテルの利用など、個々に合った排泄の方法で支援している。トイレでの排泄が可能な利用者には、声かけと誘導により、排泄用品の実費負担軽減につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表にて排便の有無を確認している。薬に頼ることもあるが、過去の病歴等から考慮し、服薬コントロールも必要な場合もあると思われる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	二日に一度の入浴を実施している。汚染時にはその限りではない。基本午前入浴となっているが、職員の確保が出来ず、午前、午後と二回に分けての入浴の時もある。午後から入浴を希望されている方は午後から入って頂くなどの配慮はしている。	入浴の基本回数はあるが、本人の希望に沿って支援を行っている。個浴での介助が中心であったが、利用者の重度化が進み、職員の負担・不安を考慮し、車いす浴槽の導入を行っている。褥瘡のある利用者には毎日シャワー浴を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	清潔で暖かい布団で眠って頂きたい。その思いから、シーツ交換表にて、布団の干し具合の管理も行っている。いつも清潔な布団を理想としている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関してはまず訪問診療等の医師が指示を出され、看護師が服薬セットを行い、飲み忘れが無いよう細心の注意を払って管理している。薬の副作用については、看護師よりの指示がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	信仰心が強い利用者は、雨天でない限りお寺にお参りするために外出している。花の水やりも朝、職員と一緒に外へ出て実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に一回は外出ドライブを実施。誕生日にはその月誕生日の方の行きたい場所、リクエストを聞いて個別にて実施している。普段行けない場所へは、家族の協力のもと、外出支援を依頼している。(例)なじみの理容室や喫茶店、外食等)	事業所の前には十分なスペースがあり、玄関から一歩外に出ると、周囲の田畑や山並みを見ることができる。定期的に関連施設で行われる喫茶でお茶を楽しんだり、ものづくり体験を行っている。外出が難しい利用者に対しても、庭に出て過ごす時間を作るなど工夫をしている。	

岐阜県 グループホームこすもすの森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	2名の利用者がお金を実際に所有している。お賽銭や飲料水、日用品の購入に充当している。お金を所有していない利用者への影響も考慮しながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から家族への電話は家族の了承のもと、余り行わないようにしている。利用者が希望し、その内容が家族に伝える適当な内容と判断した際に家族にまず職員が電話を繋ぐことを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな窓から見える風景は季節の移り変わりを認識するには最適であると思われる。地元の田園風景が安心感を醸し出している。室温管理も行っている。	共用の空間は天井が高く、開放感がある。シーリングファンが取り付けられ、適切な温度調整がされている。南側の窓からは、田畑、山並みを一望でき、四季の移ろいを感じることができる。窓際にもソファが置かれ、利用者が、それぞれの好きな場所でくつろいで過ごせる工夫がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の間でも口論が起きたりすることがある為、共有スペースを利用されている時は、距離を置いて座って頂く等の配慮も行っている。テレビを觀賞される等過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等は使い慣れた物を持参して頂くように依頼している。持ち込みに関して制限はしておらず、各利用者は自分の居室(自宅)との認識が高いと思われる。	居室には、利用者の好みの家具や愛着品を持ち込むことができる。大切にしている写真や作品を部屋の壁に飾ることも可能になっている。利用者の個性を大事にしながら、落ち着いた居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置を示す貼紙をしたりして自分の居室に迷わず戻ることができる等の工夫をしている。		